

9月 25日-10月 1日

エステル 9-10章

102番の歌と祈り 長谷川瑛一

開会の言葉（1分）星 延宏

神の言葉の宝

「モルデカイは他の人のために自分の権限を行使した」（10分）浮田 蒼

宝石を探し出す（10分）田中 克彦

エス 9:15, 16 シュシャンのユダヤ人はアダルの月の14日にも集合し、シュシャンで300人を殺した。しかし略奪はしなかった。16 王の州にいたほかのユダヤ人も集合し、自分たちの命を守つた。敵に打ち勝ち、自分たちを憎む者7万5000人を殺したが、略奪はしなかった。

ユダヤ人が略奪をしなかったのはなぜか。（塔 06 3/1 P11S4）分捕り物を強奪することが布告によって認められていたにもかかわらず、ユダヤ人がそうしなかったのはなぜですか。それにより、彼らの目的は自衛であって、自らを富ませることではなかったという点が明らかになりました

今週の範囲からエホバについて何を学べたか。宣教でどんな点を活用できるか。（ほかにどんな宝石を見つけたか。）

（9:15-16）大勢の人々の殺害についてはっきりと記載されているのはなぜか？

（9:26-27）アダルの月の14日と15日がプリムと呼ばれて祝われるようになったこと興味深い？

（1:20 エスティル記に神の固有の名エホバが一度も出てこないのはなぜですか？アクロスティック）

（この書を通してどんな教訓を学べたか？）（メシアへの家系守る勇気ある行動、法的手段）

聖書朗読（4分）エス 9:1-14（教励 第11課）向山 公庸

野外奉仕に励む

最初の話し合（2分）話し合いのサンプルの話題に沿って話す（教6課）小島 千晴 6 柴田まり子

再訪問（5分）話し合いのサンプルの話題に沿って話す。「いつまでも幸せに暮らせます」の冊子を提供し、聖書レッスンを実際にやってみる。（教励 第13課）金刺 桂子 13 米山 京子

聖書研究（5分）暮 レッスン 12 「もっと調べよう」 ポイント4（教19課）竹林亜矢子 19 水品由美子

クリスチャンとして生活する

117番の歌

「牧者たちはエホバの民のために働く」（15分）討議。動画を視聴する。阿部直生

会衆の聖書研究（30分）暮 レッスン 59 ポイント 1-5 滝 秀貞 朗読：河野 正和

閉会の言葉（3分）星 延宏

55番の歌と祈り 竹林直毅

^(エス 9:1-10:3) 第12の月すなわちアダル*の月の13日に王の言葉と法令が実施されることになっていた。しかし、敵がユダヤ人を征服しようと望んでいたその日に、反対にユダヤ人が自分たちを憎む者たちを打ち負かした。2ユダヤ人は、危害を加えようとする者たちを手に掛けようと、アハシュエロス王の全州の自分たちの町で集合した。ユダヤ人に立ち向かえる者は一人もいなかった。全ての民族はユダヤ人に対する恐怖に襲われていたのである。3州の高官、太守、総督、王の仕事を扱う人たちも皆、ユダヤ人を支援していた。モルデカイを恐れたのである。4モルデカイは王の家*で力を持っており、その名声は全州の至る所に伝わっていった。ますます力を強めていたからである。5ユダヤ人は敵を皆、剣で殺し、滅ぼした。自分たちを憎む者に対して思いのままに行つた。6シュシャン城で500人を殺し、滅ぼした。7そして以下の者を殺した。パルシャヌダタ、ダルフォン、アスパタ、8ポラタ、アダルヤ、アリダタ、9パルマシュタ、アリサイ、アリダイ、ワエザタ、10すなわち、ユダヤ人の敵であるハメダタの子ハマンの10人の息子である。しかし、殺した後、略奪はしなかった。11その日、シュシャン城で殺された人の数が王に報告された。12王はエステル王妃に言った。「ユダヤ人はシュシャン城で、500人とハマンの10人の息子を殺し、滅ぼした。王のその他の州ではどうだったか。さて、あなたの請願は何か。それをかなえよう。あなたのほかの願いは何か。それも聞き入れよう」。13エステルは答えた。「もし王にとって良いと思われるのでしたら、シュシャンにいるユダヤ人が明日も、今日の法令通りにすることが許され、ハマンの10人の息子が杭に掛けられますように」。14王は、その通り行われるようにと命じた。シュシャンで法令が出され、ハマンの10人の息子は杭に掛けられた。15シュシャンのユダヤ人はアダルの月の14日にも集合し、シュシャンで300人を殺した。しかし略奪はしなかった。16王の州にいたほかのユダヤ人も集合し、自分たちの命を守った。敵に打ち勝ち、自分たちを憎む者7万5000人を殺したが、略奪はしなかった。17これはアダルの月の13日のことで、14日は休んで、祝宴と喜びの日とした。18シュシャンのユダヤ人は、13日と14日に集合し、15日は休んで、祝宴と喜びの日とした。19こうして、周辺地域の町に住む、地方のユダヤ人は、アダルの月の14日を喜びと祝宴の日、祝いの日とし、互いに食物を送り合う時とした。20モルデカイはこれらのこと記録し、アハシュエロス王の全州にいる全てのユダヤ人に、近くにも遠くにも、正式な手紙を送った。21そして、毎年アダルの月の14日と15日を祝うよう指示した。22その日にユダヤ人は敵に悩まされずに休み、その月に悲しみが喜びに、嘆きが祝いの日に変えられたからである。ユダヤ人は、その2日を祝宴と喜びの日として祝い、互いに食物を、また貧しい人々に贈り物を送る時とするのである。23ユダヤ人は、始めた祝いを今後も続けること、またモルデカイが書き送った事柄を行うことに同意した。24ユダヤ人全ての敵であるアガグ人ハメダタの子ハマンは、ユダヤ人を滅ぼすことを企てて、ユダヤ人を動搖させ、

神の言葉の宝

モルデカイは他の人のために自分の権限を行使した

モルデカイは高い地位と権限を与えられた。 ([エス 9:4。洞-2 1004 ページ 5 節](#))

エホバを賛美するための祭りを毎年行うよう取り決めた。 ([エス 9:20-22, 26-28。洞-2 694 ページ 1 節](#))

エホバの民の幸せのために働いた。 ([エス 10:3](#))



エホバの組織の中で責任を与えられている人たちは、モルデカイに倣うよう最善を尽くす。

([近 101-102 ページ 12-13 節](#))

^(エス 9:4) モルデカイは王の家*で力を持っており、その名声は全州の至る所に伝わっていった。ますます力を強めていたからである。

または、「宮殿」。

^(エス 9:20-22) モルデカイはこれらのこと記録し、アハシュエロス王の全州にいる全てのユダヤ人に、近くにも遠くにも、正式な手紙を送った。²¹そして、毎年アダルの月の14日と15日を祝うよう指示した。²²その日にユダヤ人は敵に悩まされずに休み、その月に悲しみが喜びに、嘆きが祝いの日に変えられたからである。ユダヤ人は、その2日を祝宴と喜びの日として祝い、互いに食物を、また貧しい人々に贈り物を送る時とするのである。

クリスチャンとして生活する

牧者たちはエホバのために働く



多くの人々は権力を持つ人たちに良いイメージを持っていません。どの時代も、権力を持つ人々は自分の利益のためにそれを乱用してきたからです。 (ミカ 7:3)彼らの手は器用に悪いことをする。高官は要求がましく、裁判人は報酬を求め、著名な人は欲しいものについて語る。彼らは結託している) 会衆の長老たちはそうではありません。権威を振るったりせず、エホバの民を助けるために働くよう教えられています。 (エス 10:3)ユダヤ人モルデカイは、アハシュエロス王に次ぐ地位にあったのである。また、ユダヤ人の間で偉大な人で、大勢の兄弟たちから尊敬され、自分の民族の幸せのために働き、子孫全ての福祉を推進した。マタ 20:25, 26)しかしイエスは弟子たちを呼び、こう言った。「あなたたちは、国々の支配者が威張り、偉い人たちが権威を振るうことを知っています。
26 あなたたちの間ではそうであってはなりません。偉くなりたい人は奉仕者でなければならず)

世の中の権力者と違い、長老たちはエホバと兄弟姉妹への愛に動かされて監督の責任を果たそうとします。 (ヨハ 21:16)また2度目に、「ヨハネの子シモン、私を愛していますか」と言った。ペテロは答えた。「はい、主よ、私があなたに愛情を抱いていることをあなたは知っています」。イエスは言った。「私の小さな羊を世話しなさい」。ペテー 5:1-3 私は長老として、またキリストの苦しみの証人、やがて明らかにされる栄光を共に受ける者として、同じ長老の皆さんに勧めます。2皆さんに委ねられた神の羊の群れを世話してください。強いられてではなく、神の前で進んで監督として奉仕し(*進んで群れを注意深く見守り)，不当な利益を得ようとしてではなく、真剣な態度で世話しましょう。3神の財産である(*神から委ねられた)人たちに対して威張ったりせず、群れの模範となりましょう) イエスの指示の下、牧者たちは兄弟姉妹一人一人がエホバとの絆を保ち、エホバの家族の中で居心地よく感じられるよう助けます。また、エホバの羊である兄弟姉妹の様子を見守り、聖書から励みます。医療上の緊急事態や災害が起きたときにはすぐに援助します。助けが必要なときは会衆の長老に遠慮なく知らせるようにしましょう。 (ヤコ 5:14)病気の人がいますか。その人は会衆*の長老たちを呼んでください。そして、自分のために祈ってもらい、エホバ*の名によって油を塗ってもらってください)

「羊の群れを世話する牧者たち」の動画を見て、次の質問に答えましょう。

1. マリアナは長老たちがしてくれたどんなことに感謝していましたか。

詩 139:3 (旅するのも横になるのも見ています。私の全ての歩みをよく知っています。)から、エホバが大切に思っていてくださることに気づいた。慰めてくださっているように感じた。エホバは私を愛し世話してくださっているのだと思った。そのことを思い出させてくださった。ある長老がいくつかの聖句を書いたメモをくださり、家で読むように薦めてくださった。「助けになりたいとも思っている」とも言ってくださいました。

2. イレーズは長老たちがしてくれたどんなことに感謝していましたか。

二人の長老が遅いに来てくれた。牧者はエホバからのプレゼント。公共の乗り物に乗って、降りてから40分歩いて来てくれた。長老たちは話を良く聞いてくれた。一緒に涙を流して聖書を読んでくれた。エホバの愛を感じた。少しずつ元気になり、集会に行けた。兄弟姉妹に遭えてとても嬉しかった。

3. 2人のインタビューを見て、長老たちの働きについてどう感じましたか。

エホバはご自分の羊を失いたいとは思っていない。一人も。エレ 23:4 (そして私は、彼らをしっかり世話する牧者たちを立てる。彼らはもはや恐れることもおびえることもなくなり、誰も失われない)と、エホバは宣言する。)

すぐに長老に知らせましょう ○連絡先が変わったとき ○難しい問題に直面しているとき ○長期間不在にするとき ○医療上の緊急事態が生じたり、入院したりするとき ○重大な罪を犯したとき